

生産出荷近代化計画の概要

[野菜指定産地名] みやぎ仙南

[指定野菜の種別] 夏秋きゅうり

[指定区域] 白石市, 角田市, 蔵王町, 大河原町, 村田町, 柴田町, 丸森町

[指定年月日] 昭和45年10月13日

[計画樹立年月日] 昭和46年8月28日

[計画変更年月日] 令和3年3月31日

[変更後の計画概要]

○生産及び出荷の近代化に関する基本構想

当該地域は、昭和41年より野菜指定産地に管内6町村が順次指定されたことにより、夏秋きゅうりの県内における主産地となった。

その後、産地の強化が図られるとともに、JAみやぎ仙南を中心に、各地区の夏秋きゅうり部会を統一し連絡協議会の設置や、出荷規格の簡素化、出荷資材の統一など出荷体制の整備と生産経費の削減等、様々な取り組みが行われた。

出荷先もコンテナ出荷による京浜市場を中心に販路を広げ、予約相対出荷にも取り組んでいる。

一方、露地を中心とした栽培体系のため気象の変動による単収の増減が大きいなどの問題を克服するため、耕畜連携による有機物施用など土づくりを主体とした栽培技術の向上が図られてきた。また、管内でも発生が確認され、現在各地で問題になっている、ズッキーニモザイク病などアブラムシが媒介する病害虫の防除に関する技術講習会等を開催するなど土壌改良等を行う等の対策にも力を入れている。

様々な栽培技術に取り組む反面、栽培者の高齢化や後継者不足により作付面積は減少傾向にあり、今後もこの傾向は変わらないと考えられる。

今後は、有機物施用による土づくりと定期的な土壌診断の実施はもちろん、雨よけパイプハウスやネット栽培の推進により出荷期間の長期化と病害虫の発生軽減に努め、生産性の安定と作期の拡大による収量の向上を図ることで、指定産地としての維持発展を図っていく。

○生産出荷近代化の現状と目標

項目	現状 (H29)	目標 (R4)
作付面積 (ha)	48	44
生産量 (t)	686	456
出荷量 (t)	520	456
共販等量 (t)	395	410
共販等率 (%)	76	90
収量 (kg/10a)	1,430	1,400